

キャッチフレーズ形式を用いた 新しい政治的態度尺度の構成II —社会人用尺度の開発の試み—

東 正訓*・西道 実**

The Construction of a New Political Attitude Scale Using a Catch Phrase Form (II) : Catch-Phrase Scale for Adult Laborers

Masanori HIGASHI* & Minoru SAIDO**

Abstract

The purpose of this study was to construct political attitude scale for adult laborers. 13 scales in a catch-phrase form were constructed by item analysis based upon principal component analysis with Varimax and Promax rotation. The scale was found to be a reliable, valid, and econonocal instrument.

Multi-variate analyses of the scale showed that the attitude structures obtained by this study were not identical to those found in previous studies. These results suggested the necessity of reconsidering a paradigm of inter-attitude structure research.

Keywords : political attitudes, scale construction, adult laborers,
factor analysis, canonical discrimainant analysis

* 追手門学院大学人間学部 (The Fuculty of Humanics Otemon Gakuin University)

** 関西女学院短期大学コミュニケーション学科

謝辞：本研究の調査実施にご尽力をいただきました社団法人国際経済労働研究所に厚く感謝の意を表します。

問 題

現在、われわれは、社会人（労働者層）を対象として政治的態度を中心領域とした調査を計画中である。本研究は、この調査において簡便に使用できる政治的態度尺度の開発を目的としている。

大学などの教育機関に属する研究者にとって、大学生を対象とした態度調査を実施する場合には、調査に要する時間の制約はさほどないものであり、多数の被験者を対象として多くのアンケート項目を含む調査を容易におこなうことができる。現代心理学の知見は大学新入生を対象とした“鉛筆と質問紙調査 (pencil and paper test)”に依存すると揶揄される所以である。しかしながら、政治的態度の研究は、大学生から得られた知見だけでは不十分であることはいうまでもない。特に社会人など一般有権者を対象にしなければ、政治的態度研究の意義はほとんど見いだせなくなる。ところが、質問項目数が多くなればなるほど、一般人を対象とした調査は実施が困難となる。しかし、実施可能性を高めるために項目数を減らしたことによって信頼性と妥当性を犠牲にした調査からは十分な成果は得られない。

そこで、われわれは、このような困難を回避するために、実施にかかる時間を短縮しながらも、広範な測定内容を持ち、かつ信頼性も高いキャッチフレーズ形式による態度尺度を開発することにした。Wilson & Patterson (1968) によれば、キャッチフレーズ形式による態度尺度は、態度対象そのものを項目として使うために多義性による回答反応への影響、黙従反応や社会的望ましきによる歪曲反応をある程度抑えることができるという。また、Kerlinger (1972) は、同形式の尺度の利点として、項目が短く簡単なのでより広い態度領域をカバーしやすいことをあげている。

われわれは、これらの利点に着目し、キャッチフレーズ形式による態度尺度の開発をめざすことにした。そこで、われわれは測定領域をできるだけ広範にしつつも、構成後の尺度内項目数は最大40項目以内に抑えるという目標のもとに、尺度構成をおこなうことにした。

方 法

1. 質問紙の構成

東 (1994) が構成したキャッチフレーズ形式の態度項目に若干の修正を加えたものを項目群の中心とした。さらに、職場関連の項目、当時の争点であった防災対策、政府の危機管理や規制緩和、宗教法人、マスコミの過剰報道といった項目を付け加えて、計55項目のキャッチフレーズ形式尺度項目を用いることにした。

また、構成された尺度の妥当性の検証のための外的規準として、政党支持に関する質問項目も付け加えられた。

さて、キャッチフレーズ尺度の教示は、口頭で次のようにおこなった。『以下には、社会や政治に関するさまざまなトピックを表した単語やキャッチフレーズのリストがあります。あなたは、これらのトピックについて、どの程度「よい」または「よくない」と思われますか。『まったくよくない』から、『ひじょうによい』までの7段階のものさしがありますから、あなたの気持ちに最も近いと思われる所の番号に○をつけてください。あまり考えこむと答えられなくなりますので、最初に思った所に○をつけてください。それでは、こちらの読むスピードにあわせてご回答ください。』

評定方法は、「まったくよくない」～「どちらでもない」～「ひじょうによい」の3カテゴリにつき、1点から7点までを1点間隔で区切って被験者に提示し、回答をおこなわせた。回答反応の得点化は次のようにおこなった。まず「まったくよくない」には1点をあたえ、次に1点きざみの間隔で2点、3点を割り当て、「どちらでもない」には4点を、つぎに5点、6点を割り当てる。そして「ひじょうによい」には7点を割り当てるという方式である。

2. 調査方法と時期

本調査は、社団法人国際経済労働研究所の協力を得て大手メーカーの従業員を対象として1995年10月上旬から10月中旬にかけて行われた。調査の方法は、個々人に、質問紙を個別に配付し、留置法により行われた。調査票の回収に際しては、記入済みの質問紙を封筒に厳封するなど、プライバシーを保護する配慮をおこなった。

なお、調査当時は、村山富市を首班とする社会党、自民党、新党さきがけによる連立内閣が成立していた時期であった。この時期は、衆議院の解散及び選挙はどの時期になるかが話題となっていたが、住専問題処理への公的資金導入は政治的争点とはなっていなかった。なお、被験者の総数は375名であり、その内訳はTable 1に記した通りである。

Table 1 被験者の年齢×性別の人数構成

性別	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
男	80	88	91	21
女	72	15	3	5

結果と考察

1. 項目分析

主成分分析 (Varimax 回転および Promax 回転) によって全55項目のクラスタリングをおこなった。東 (1994) の研究にて報告したように、キャッチフレーズ尺度項目の因子解は、一般因子的な因子と習性水準の因子が混在する傾向にあるようである。今回も、因子の抽象水準にふぞろいが生じたので、ひとまず習性水準の因子に負荷した項目を仮尺度として採用した。そして、複数の内容が混在している一般因子的な因子に負荷する項目に関しては、2 因子解をめぐりして主成分分析 (Varimax 回転) をおこない、項目群の分割を図った。

これらの作業を通じて、Table 2 に示した13個の仮尺度が構成された。目的において述べたように、より少ない項目数で多岐にわたる測定領域をカバーしうる尺度構成を目標としたため、項目数が3個以上の仮尺度項目については、さらに第一主成分の因子負荷をもとめ、負荷量の高い順に3個の項目を採用することにした。なおこの作業によって項目数を減じた尺度を簡便尺度とよぶことにする。最終的にこの簡便尺度に採用された項目は、Table 2 ではアスタリスクのマークを付して仮尺度の項目と区別している。なお、2 項目のみで構成される尺度も3つあるが、今後、類似内容の項目を付け加えて、信頼性の確保を図る予定であり、今回の分析においては、そのまま使用することにした。以上の項目分析によって、仮尺度項目数は42項目で、簡便尺度は36項目となり、経済的かつ効率的な尺度構成ができたと思われる。

2. 信頼性の評価

項目分析において構成された仮尺度と簡便尺度の採点は、項目得点の単純加算によっておこなわれた。ただし、「現代世界の危機」と「政治腐敗批判」の2尺度に関しては項目得点を逆転して採点をおこなった。これは、尺度得点の高くなる方向が尺度名の特性方向に一致するようにするためである。

Table 3 に仮尺度および簡便尺度の α 係数を掲載した。全体的には仮尺度よりも項目数を減じても信頼性には支障がないと考えられる。なお、態度尺度の場合、すくなくとも α 係数は0.6 台が要請されるところである。簡便尺度に関して、この条件を満たさないものとしては、政治的保守主義尺度と雇用制度の現状維持尺度がある。その採否や改良に関しては後に論じることとして、以下ではここで開発された13尺度全てを使用して、その心理測定的性質を検討していくことにした。

東・西道：キャッチフレーズ形式を用いた新しい政治的態度尺度の構成Ⅱ

Table 2 キャッチフレーズ尺度項目一覧

Item No.	ナショナリズム	Item No.	政治腐敗批判
24*	君が代	21*	企業による政治献金
38*	日の丸の国旗	14*	日本の官僚
17*	天皇制	35*	金権政治
31	愛国心	7	派閥政治
		28	二世議員（議員の世襲）
Item No.	日本政府の政策課題	Item No.	日本の国際貢献
49*	高齢者福祉	44*	日本が国連常任理事国入りすること
48*	政府の危機管理	43*	日本のPKO活動
45*	防災対策	36*	日本の国際貢献
50	地方分権		
Item No.	政治参加	Item No.	雇用制度の現状維持
19*	市民が政治に参加すること	55*	年功序列制度
5*	市民運動	51*	終身雇用制度
26*	政治に関心をもつこと		
12	ストライキ		
Item No.	社会・共産主義	Item No.	エコロジー
46*	社会主義	23*	フロンガスの生産規制
42*	共産主義	16*	地球環境問題へのとりくみ
		9*	熱帯森林の保護
		2	エコロジー
		30	無農薬野菜
Item No.	男女平等	Item No.	道徳的態度
15*	男女雇用機会均等法	1*	人それぞれの個性を尊重すること
8*	男女平等	3*	敬語
		10*	目上の人を尊敬すること
Item No.	政治的保守主義	Item No.	自由主義
11*	原子力発電所	29*	自由主義
4*	自衛隊	33*	民主主義
25*	日米安保条約	22*	言論の自由
18	日本国憲法の改正		
39	資本主義		
Item No.	現代世界の危機	Item No.	残余項目
20*	核兵器	52	マスコミの過剰報道
13*	地球温暖化	47	宗教法人法の改正
27*	人種差別	37	非武装中立
34	戦争	54	従軍慰安婦への賠償
6	公害	41	死刑制度
		53	規制緩和
		40	教科書の検定制度

Table 3 各尺度の α 係数

尺度名	仮尺度	簡便尺度
ナショナリズム	0.792	0.774
現代世界の危機	0.838	0.781
政治的保守主義	0.588	0.550
社会・共産主義*	0.676	0.676
日本の国際貢献*	0.706	0.706
政治腐敗批判	0.762	0.705
政治参加	0.649	0.798
自由主義*	0.756	0.756
男女平等*	0.710	0.710
日本政府の政策課題	0.740	0.769
エコロジー	0.746	0.701
雇用制度の現状維持*	0.407	0.407
道徳的態度*	0.694	0.694

注) * は、仮尺度と簡便尺度の項目が同じことを示す。

Table 4 簡便尺度の相関行列

尺度名	エコロジー	道徳的態度	男女平等	政治参加	日本政府の政策課題	自由主義	日本の国際貢献
エコロジー							
道徳的態度	599**						
男女平等	416**	367**					
政治参加	453**	495**	307**				
日本政府の政策課題	273**	276**	224**	145*			
自由主義	493**	423**	262**	510**	179**		
日本の国際貢献	363**	316**	252**	292**	419**	321**	
雇用制度の現状維持	160**	229**	137*	209**	245**	192**	274**
政治腐敗批判	249**	177**	045	215**	-110	156**	-090
現代世界の危機	214**	208**	036	294**	-059	260**	-003
社会・共産主義	-042	-122*	064	-094	055	-132*	-047
政治的保守主義	201**	158**	116*	202**	207**	239**	404**
ナショナリズム	155**	208**	162**	224**	134*	229**	276**

尺度名	雇用制度の現状維持	政治腐敗批判	現代世界の危機	社会・共産主義	政治的保守主義
エコロジー					
道徳的態度					
男女平等					
政治参加					
日本政府の政策課題					
自由主義					
日本の国際貢献					
雇用制度の現状維持					
政治腐敗批判	-111				
現代世界の危機	-146**	563**			
社会・共産主義	037	-327**	-187**		
政治的保守主義	164**	-242**	-138*	-092	
ナショナリズム	201**	-080	-004	-015	547**

注) **..... $p < .01$, *..... $p < .05$

注) 小数点省略

3. 簡便尺度間相関行列と因子分析の結果

簡便尺度間の関係をみるために、尺度間相関行列をもとめた (Table 4 を参照)。尺度間の相関は比較的高く、これらの尺度を統括するような上位因子の存在が予想された。そこで、尺度間相関行列を主成分分析し、Varimax 回転および Promax 回転を施して、3 因子を得た。結果は、Table 5 に示した。

第一因子は、「エコロジー」、「道徳的態度」、「男女平等」、「政治参加」、「日本政府の政策課題」、「自由主義」、「日本の国際貢献」に正の負荷を持つ。社会的に解決すべき諸問題に対して関心をもつ傾向を測定する因子と考えられる。

第二因子は、「政治腐敗批判」、「現代世界の危機」に正の負荷をもち、「社会・共産主義」に負の負荷をもつ。プラス方向に解釈すると、企業献金や金権政治や核兵器、人種差別に批判的な人は社会主義や共産主義にも批判的である傾向を測定すると考えられる。

第三因子は、「政治的保守主義」、「ナショナリズム」に正の負荷をもつ保守主義因子と考えられる。

4. 簡便尺度をもちいた支持政党を外的基準とした正準判別分析

簡便尺度が測定する態度と支持政党との間の関係を検討するために、被験者の支持政党を外的規準とした正準判別分析をおこなった。

支持政党の特定化は次の手順によっておこなわれた。まず最初に支持政党を質問して、支持政党がないと答えた被験者に対して、次に好きな政党を質問した。最初の質問で支持政党を答えた被験者を各政党の支持者とした。さらに、次の質問で好きな政党を答えた被験者を各政党の支持者とみなして付け加えた。支持なし群は、2 回めの質問においても好きな政党はないと答えた被験者で構成した。欠損値がある被験者を除いて、最終的には360名の被験者を判別分析の対象とした。Table 6 には各政党支持者の人数構成が示されている。なお、本研究のサンプルはランダムサンプリングによるものではないため、支持者群の人数に偏りが生じている可能性を指摘しておく。正準判別解の統計的検定の結果、5%水準で、第1判別軸のみが有意であった。第2判別軸は、わずかに5%水準に達しなかった。

Table 7 の正準構造値によれば、第1判別軸は、「社会・共産主義」尺度に高い負荷をもつことから、社会主義や共産主義に対する好悪の態度を測定する軸と考えられる。Fig. 1 の判別軸上の判別得点平均のプロットによれば、プラス方向にそして、共産党支持群を位置づけている。そして原点付近に支持なし及び社会党支持を位置づける。そして、マイナス方向に向かって自民党支持新党さきがけ支持、その他の政党支持、新進党支持群を位置づけている。全体的に見ると、共産党支持者群が、共産主義や社会主義に対する態度次元上において、他の支持者群と違いを生じているという結果である。

Table 5 因子分析の結果
(準拠構造値と因子間相関)

尺度名	第1因子	第2因子	第3因子
エコロジー	736	132	-037
道徳的態度	693	138	013
男女平等	661	-163	-150
政治参加	555	281	128
日本政府の政策課題	528	-361	044
自由主義	510	267	206
日本の国際貢献	457	-161	368
雇用制度の現状維持	375	-303	158
政治腐敗批判	101	748	-201
現代世界の危機	140	711	-118
社会・共産主義	226	-631	-365
政治的保守主義	016	-065	816
ナショナリズム	030	047	733
因子間 相関行列	第1因子	171	271
	第2因子	171	-089
	第3因子	271	-089

注) 小数点省略

Table 6 支持政党別の人数構成

支持政党	自民党	社会党	新進党	新党さきがけ	共産党	その他の政党	支持なし
人数	40	56	41	22	6	9	186
比率	11.2%	15.6%	11.4%	6%	1.6%	2.5%	51.26%

Table 7 正準判別分析の結果
(正準構造値)

尺度名	第1軸	第2軸
ナショナリズム	-164	-296
現代世界の危機	199	209
政治的保守主義	-161	-101
社会・共産主義	659	-354
日本の国際貢献	-373	335
政治腐敗批判	150	284
政治参加	172	340
自由主義	182	635
男女平等	296	292
日本政府の政策課題	-197	-054
エコロジー	299	353
雇用制度の現状維持	-031	-139
道徳的態度	090	003
近似F統計量の確率水準	0.0003	0.0666

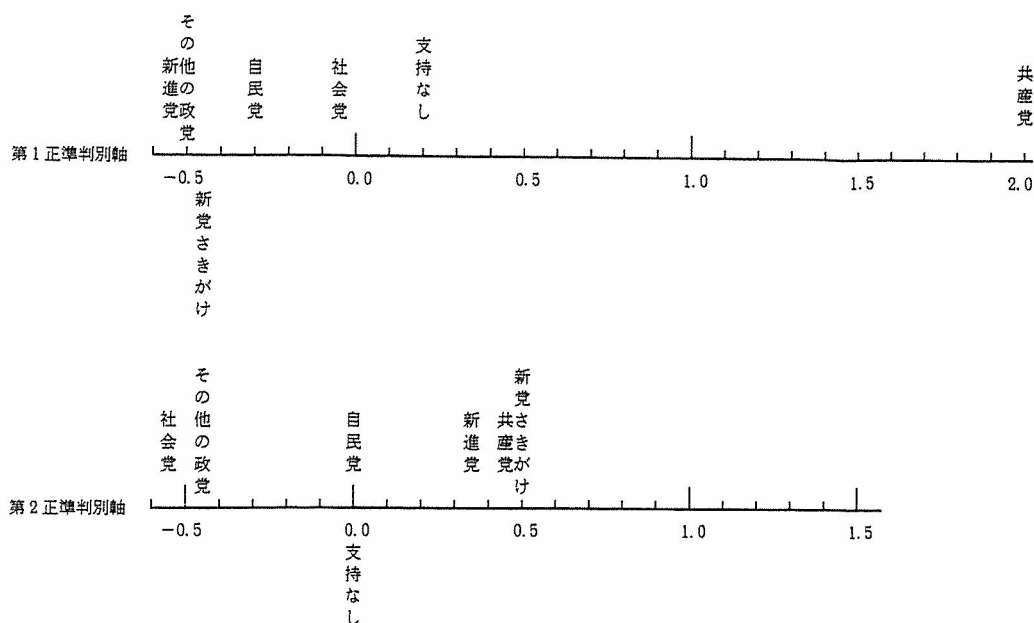


Fig. 1 各群の正準判別得点平均値のプロット

全体的考察

1. 簡便尺度の構成結果の全体的評価

今回の項目分析によって開発された簡便尺度は、13尺度（全項目数は36個）からなり、経済的かつ信頼性が保持された尺度であると評価できる。しかしながら、政治的保守主義と雇用制度の現状維持尺度は実際的使用に関して信頼性に乏しいと判断される。

まず今後改良すべきは、政治的保守主義尺度である。いうまでもなく政治的保守主義 (political conservatism) は、政治的態度間構造研究において、重要な位置をしめる変数であるので、是非とも当尺度の改善が必要であろう。なお、雇用制度の現状維持尺度は、社会人労働者の調査においては意義が認められるものの、代替可能な既存尺度もあることから、今後予定される調査には使用しないつもりである。

さて、こうして構成された簡便尺度がカバーする領域だけで、政治的態度測定に際して十分かどうかは、今後の検討課題である。簡便性を重視したために実際の使用に際しては重要な変数の抜け落ちがないかどうか十分に検討しなければならない。また、今日の政治状況では、政党間の主張の差異もほとんど見だしにくい。そこで、政治的行動に直接関わる態度変数とは、われわれの簡便尺度のような基底的な態度変数ではなく、短期的に生じる政治的争点に対する態度変数である可能性もある。たとえば、今日では、住専問題処理の公的資金導入のような争

点が挙げられよう。このような短期的争点に関しても、測定時の状況にあわせて随時、尺度項目をバッテリー内に追加する必要があるだろう。そうすれば、簡便尺度が測定する基底的態度次元と短期的争点に対する態度がどのような関連をもつかの検討が可能となろう。

2. 本研究の結果から見た政治的態度構造の“変化”

尺度構成の過程で、近年進行しつつある政治的態度間構造の変化を示唆する結果がいくつか得られている。

まず、われわれの構成した簡便尺度の因子分析の結果と類似尺度による大学生を対象としたデータを分析した東（1994）の因子分析の結果とは必ずしも一致しなかった。東（1994）によるキャッチフレーズ尺度の因子分析では、2因子解が採用されており、本稿の第一因子と「社会・共産主義」尺度抜きの第二因子が合体した形で自由主義（liberalism）関連の因子が抽出されていた。東（1994）の研究においては本研究と同様の項目を使用した。大学生の場合には社会主義や共産主義に関する尺度は構成できなかった。一方、社会人の場合は尺度として構成可能であった。これは対象年齢が広い社会人の場合、社会主義や共産主義に対する態度の個人差はいまだ観察可能であったということを示唆している。

しかしながら、当該尺度の態度間構造における位置づけは従来の研究結果と異なっていることに注意しなければならない。従来の態度間構造研究が示唆してきた保守－革新次元の観点からは、政治腐敗批判と社会主義や共産主義への肯定的態度は正の相関関係にあると仮説されてきた。しかし、本研究の尺度間相関やその因子分析の結果からは、政治腐敗および核兵器や人種差別に批判的な人は社会主義や共産主義に対しても批判的である傾向がみいだされており、負の相関関係にあることが示された。本研究の結果からは、従来の態度間構造研究のパラダイムを見直す必要性が示唆される。これらの問題に関しては別稿にて詳細に展開したいと考える。

次に、妥当性検証の一環としておこなった支持政党別の判別分析の結果によれば、判別軸上に現れた支持者群間の差異は、共産党支持者群と、それら以外の各政党支持者群や支持政党なし群との間にのみ存在する差異であった。従来の研究では、保守－革新の連続体上に、各政党支持者群を一般通念的にイメージされる序列に従って位置づけることが可能であった（早川，1986；東，1993）。しかし、1993年に大学生を対象とした調査をおこなった東（1994）の判別結果においては、保守－革新軸にはやや変質が認められており、新生党と自民党群を一方の極に、社会党は原点からプラス方向より、そして他方の極には共産党群を位置づける判別軸が見出されている。さらに今回（1995年）の結果では、共産党を一方の極に位置づけ、それ以外の政党支持者群の序列は旧来の保守－革新の序列とは必ずしも対応しない位置づけがなされている。

本研究の判別結果と従来の研究との不一致は現在進行しつつある日本の政治状況の変化にと

もなう結果とも解釈できる。いわゆる複数の政党の寄り合い所帯となった新進党の出現によって、旧来政党の支持者群間に見られた態度の群間差が埋没（縮減）してしまったことも原因の一つであろう。さらに現在では、社会主義国の相次ぐ崩壊をうけて、社会主義や共産主義への評価は共産党支持者においてのみ肯定的に評価されている（但し、本サンプルの共産党支持者群の場合、他の支持者と比べて相対的に肯定的であるという結果であり、強く肯定しているという訳ではない）。しかも今日では共産党をのぞいて、ほとんどの政党は与党の経験をもつにいたり、それらの各党の主張間に差異はほとんど認めにくいといえる。それゆえ支持政党と政治的態度の関係も弱くなりつつある傾向があるのかもしれない。こうした政治的態度と行動の関係変化のあとさきを計量的にあとづけていくことは社会科学的にも意義があると思われる。

今後は、ここで開発された社会人用の尺度によって測定された態度構造と同時期に収集した大学生データの構造の間に違いが認められるかどうかを検討するとともに、この尺度の簡便性を生かして、社会人対象の調査研究に利用していきたいと考えている。

参 考 文 献

- Kerlinger, F.N. 1972 The structure and content of social attitude referent : A preliminary study. *Educational and Psychological Measurement*, 32, 613-630.
- 東 正訓 1993 政党支持集団の判別分析—保守-革新諸態度尺度 8 尺度をもちいて— 追手門学院大学心理学論集創刊号, 3-10.
- 東 正訓 1994 キャッチフレーズ形式を用いた新しい政治的態度尺度の構成 追手門学院大学文学部紀要, 30, 1-11.
- 早川昌範 1986 政治的態度構造における方向の次元の多次元分析 愛知学院大学人間文化研究所紀要, 2, 46-59.
- Wilson, G.D. & Patterson J. 1968 A new measure of conservatism. *British Journal of Social and Clinical Psychology*, 7, 264-269.

1996年4月10日 受理